

【図書・資料コーナー】

男女共同参画に関する情報を収集し、提供しています

□貸出：月～土 10:00～17:15

図書・雑誌…5冊2週間／ビデオ・DVD…1本1週間  
（ただし、資料整理期間、休日、祝日、12月29日～1月3日は除く）

【女性のための相談室】

□電話相談：0798-64-9499

月・木／10:00～16:00

一人40分程度

□面接相談：要予約

火・水・土／10:00～16:30

一人50分

□法律相談：要予約

第3金／14:00～17:00

一人30分

【女性のためのチャレンジ相談】

再就職・起業・地域貢献の実現に向けたアドバイス、

ニーズに応じた支援施設の紹介など、キャリアコンサルタントによる相談です

□面接相談：要予約

第2火／10:00～12:00、第3水／13:00～16:00

一人50分／託児付き

※予約 0798-64-9498（月～土／9:00～17:15）

（ただし、休日、祝日、12月29日～1月3日は除く）

イーブン（兵庫県立男女共同参画センター）

【男性のための電話相談】

□078-360-8553／第1・3火／17:00～19:00

（ただし、休日、祝日、12月28日～1月4日は除く）

※対象：原則、県内在住・在勤・在学の男性



男性問題

あなたの生きづらさ、“男らしさ”問題かも？

発行：西宮市男女共同参画センター ウェーブ

〒663-8204 西宮市高松町4-8 プレラにしのみや4F

TEL.0798-64-9495 FAX.0798-64-9496

[http://www.nishi.or.jp/navi/ln\\_0009600000.html](http://www.nishi.or.jp/navi/ln_0009600000.html)


<https://www.facebook.com/nishi.wave/>

発行日：平成29（2017）年3月

イラスト：宮武小鈴

# あなたの生きづらさ、 “男らしさ”問題かも？





男らしく仕事に全力投球しても、右肩上がりは過去のこと…  
男らしく仕事に全力投球したら、家庭崩壊？  
男らしく仕事に全力投球するつもりでも、ノー残業デー…  
時代は変わり、男の生き方も変わらざるを得ない。

「男らしさ」って、強くて頼もしく、無口で決断力があって、経済力も包容力もあって…  
けれど、自殺率は高いし、刑務所に収容される率も高い。平均寿命も短い。

少年鑑別所入所者に占める男子の割合は、女子の8倍以上。  
少年院の入所者に占める男子の割合は、女子の9倍以上。

「男らしい」生き方、今のままでいいのかな？

参考資料：  
「男子問題の時代？」多賀太著／学文社／2016



## 清々しいおじさんになるために

男性も「男女共同参画社会問題」の当事者です

「急速に変化する社会にあつて、高度経済成長期を支えた世代の経験が今の子育て世代の役に立つかという非常に難しい」と言う田中さん。イクメンという言葉が流行り、真面目な男性ほど「仕事と家事育児の両立ができない」と悩む。「男女共同参画」は男性にとっても当事者問題です。

田中俊之（武蔵大学社会学部助教）

主な研究分野は、社会学・男性学。

著書：「男性学の新展開」（青弓社）、「男がづらいよ」（KADOKAWA）、

「40男」はなぜ嫌われるのか」（イースト新書）、「男が働かない、いいじゃないか!」（講談社）など。

### 清々しさは、これからの社会における作法のようなもの

「清々しいおじさん」とは、やさしくて、まじめで、細やかなことに気がつく人です。僕にとって、清々しいおじさんのイメージは、高校生のときの体育教師です。朝会うと自分から「おはよう」と言ってくれる、とにかく爽やかな人でした。円盤投げの授業で、全然飛ばない僕に「田中君はフォームがいいよ」って褒めてくれました。僕はフォームがいいんだ、先生は見てくれているんだと安心感をもつことができました。落ち込んでいる生徒に対する気遣いの細やかさに、信頼できる人だと思えました。

「清々しくないおじさん」は、乱暴で不真面目で大雑把、だから平気で他人に迷惑を

かける。批判されれば「コミュニケーションのつもりだった」「叱咤激励しただけ」と責任逃れの言い訳をする。他人の失敗には厳しいのに自分は謝罪しません。

清々しい人のもうひとつの特徴は「俺が俺が」じゃないことです。自分のことばかりではなく、40歳を過ぎたら、「次世代に譲っていく」という責任を考えていかなければならないと思います。

### 男性はもっと自分を大切にしてほしい

大学生のとき「男性は、卒業して就職して結婚して、定年まで40年間働く」という生き方が当たり前であることに納得できず、疑問をもったのが男性学をはじめた理由です。なんとなくおかしいと思っていることを顕在化し、気づいてもらうのが男性学の役割です。

髪が薄くなり始めた友人は「お前髪薄いな」といじられる。「お前太ったなあ」「40過ぎて結婚しないんですかー」、こんなことを女性に言ったら、とんでもない暴力です。男性は雑に扱われ過ぎています。

女性対象に夫婦関係の改善をテーマにした講座で、「夫のいいところ、悪いところ」を書くワークをしました。いいところを「馬車馬のように働く」と書いた人がいました。「一生懸命働いてくれる」でいいじゃないですか。切なくなりました。

妻から見たら文句を言わずによく働く、会社の

人から見ても大変なことをやってくれる、傍から見たらいい奴。そんな人は弱音を吐かないけれど、実は傷ついているかもしれないんです。「男らしく我慢する」とプライドをもつのはいいですが、ときには曲げることも必要です。

アメリカのテレンス・リアルという臨床心理士が著書の中で、男のうつ病は皮肉だと言っています。男は「脆弱であってはならない。苦痛は乗り越えなければならぬ。それができないことは恥である」と言われて育つため、男性にうつ病をもたらす要素が、うつ病を正視させないように作用しているのです。

最近では、仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス」が注目されています。LIFEは「命」という意味もあります。「忙しくて病院に行く暇がない」って、本末転倒です。働いていて、身体を壊したり、病気になったり、最悪、過労死、あつてはいけなことです。現に起こってしまっています。労災が過去最多になり、心の病が増えています。そこまで会社に尽くして、会社は何をしてくれるんですか？

「男」であることと、「働く」ことの結びつきがあまりにも強すぎる社会です。男性は仕事で認められるから、仕事以外に評価軸がないからのめり込みやすい。とはいつても、みんな定年になります。優先すべきは、自分の命、生活、生涯です。

### あえて「男が働かなくてもいいじゃないか」と言っている

お父さんががんばれば、家族全員が幸せになった時代はありました。1975年は女性の労働力率が一番下がっています。理由のひとつが配偶者控除。年間所得103万円以下のサラリーマンの配偶者は、年金を払わずに取得できる制度です。国が先導して「サラリーマンの男性と専業主婦の女性」に誘導しました。それ以外の生き方は選びにくかったわけですが、男性が仕事を辞めたら家庭が崩壊しかねないシステムでもあります。

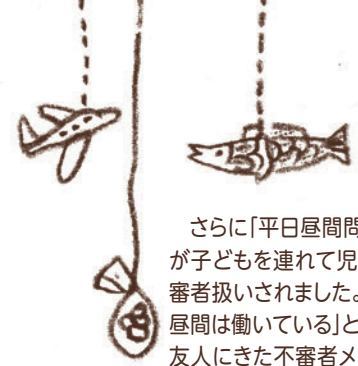
今は多くの男性が働いてい

た建築、製造などの主力産業が衰退し、給料は下がっているのに労働力率は世界最高水準のまま、心の病の労災申請が増えています。男性の年収はこの10年で100万円下がり、若い正社員のボリュームゾーンは300万円台です。高度経済成長期は大変でしたが、今日より明日の暮らしが良くなると信じられました。今の若者にはそれはかなえられません。

90年代後半から連続で年間3万人が自殺しています。そのうち女性が1万人を超した年はありません。男性は女性の3倍も自殺している年もあります。その差をみると「性別が関連して発生する問題」があるということです。中高年男性の特徴は悩みがあつても相談しないという調査結果があります。我慢するように育てられているから、辛いことがあつても抱え込んでしまう。男性は人に悩みを相談することの価値を見極めるべきです。

しかし、ここで問題は相談する友だちがない。40代の知り合いの男性は趣味もなく友だちもいないが、それでいいと言う。どんな孤独を生きようとしているんですか。もうひとつが「洋服問題」。スーツなら失礼じゃないと信じている人がいますが、プライベートがないからスーツ以外の洋服がない。洋服がないから出かけられないのです。





さらに「平日昼間問題」。育休中の友人が子どもを連れて児童館に行ったら、不審者扱いされました。「まともな男は平日昼間は働いている」という偏見です。最近友人にきた不審者メールは「バス停に男が立っていた」。男性は平日昼間にバス停でバスを待っているだけで不審者だと通報されるんです。

### 重要なのは「積極的な寛容」です

市民講座で男性に「今日は花でも買って帰ってください」と言ったら、女性に「花くらいで許されるわけないわよ」と怒られたことがあります。女性から「私とコミュニケーションをとる気があるんですか?」と問われているんです。

男性がやりがちなのは、要件を伝えるだけの要件伝達型。もうひとつは「で、この話のオチは何?」。ただなんとなく話すことが楽しいという人間の能力に注目すべきです。話を真面目に聞いてもらえることはだれにとっても嬉しいことです。ただししゃべることがいい人間関係をつくり、重要だと思わないことに人生の価値をみることもできるかもしれないのです。

会話をすると、お互い影響しあい、譲りあう余地が出てきます。人の意見を尊重しない人が、人に尊重される理由はないです。今、世の中では論破する人が賞賛されていますが、いろんな人の意見を取り入れずに独断的な狭い考え方で物事を決めてしまっ

ていいんでしょうか。論破することをコミュニケーションとは言いません。対話によって、いろんな人の視点が入ることの価値が理解できていないんです。

その意味では、僕の主張を不愉快に思う人がいることは想像がつかま

す。職場の大学に苦情の電話がかかってきます。「男は男らしく、女は女らしくするものだ」と。

攻撃的で一方的な人の意見が通りやすい世の中はまずいでしょう。意見を交わすことによって、自分の考えを修正することもでき、得るものがあります。対話ができず、勝つことが目的化していると、思い通りにいかなかったときには理由を知る機会のないまま不愉快さしか残りません。

### 男性の働き方が変わらないと、女性の苦しさは解消されない

1973年からNHK放送文化研究所は「父親はどうあるべきか」を調査しています。40年前は4割の人が「父親は子育てすべきではない」「男の仕事ではない」と答えていましたが、今そう考える人は1割以下。9割の人が「男も家事育児をすべきである」と答えています。子育てにおいて、父親独自の役割があるのかというと、たぶんないです。母親にしかできないこと、父親にしかできないことと考えるのはナンセンスです。

しかし現実には、男性は2%の人しか育休を取っていません。共働き世帯は多いですから、女性は働きながら家事も育児もしています。僕は育休をとったことで産褥期の妻を通して「社会は女性の我慢を前提に成り立っている」と実感しました。精神的にも不安定な産褥期の女性ひとりで、子育てしながら家事もする、そんな状況では女性に男性を大事にしてくれとは言えません。

では男性は楽なのか。女性は結婚と出産で仕事を辞めなければならないと悩むけれど、男性は結婚して仕事を辞めるなんてあり得ないし、子どもが生まれたら、ますます辞められない。男性の

最大の悩みは仕事を辞めることができないことです。家族の経済の全責任を一生引き受けて働くということです。

定年退職後の男性にインタビューを



しました。「楽しかった」人もいますが、多くの人が「我慢していた」「何をやってたのかよくわからず、40年が過ぎた」と言います。妻が専業主婦だと、仕事を辞めるとは言えなかったのです。高度経済成長期にがんばった仕事中心の生き方は経済的なリターンがあっても、地域に友だちもいなければ妻にも相手にされず、人生トータルでは得るものが少なく幸せなのかと疑問です。

「一日8時間週40時間が最低限、それ以上に働くと男性中心型の労働慣行を見直すことが「女性の



活躍」につながると考えています。定時に仕事を終え7時に家に帰ると、子育て中の人なら、子どもと一緒にご飯を食べて、お風呂にも入り、寝かしつけるところまでできます。5時に終わる職場なら、夕ご飯を作ることもできます。男性が定時に帰ることができたら、男女の問題はかなり改善するはずですよ。



## 女性への暴力を選ばない、男たちのアクションホワイトリボンキャンペーン

「一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン(WRCJ)」2016年4月設立

女性への暴力をなくしていくカギのひとつは、暴力を振るわない大多数の人たち、とりわけこの問題に「無関係だ」と考えがちな男性が主体的に解決へ向けた行動をすること。

1. 決して暴力をふるわないことを誓う
2. 女性への暴力は社会全体で解決すべき問題であることを理解する
3. 女性への暴力をなくするために責任をもって行動する
4. 女性への暴力をなくするために活動している女性たちの力になる
5. 上記1から4を実行する男性を増やしていく

### 【フェアメン宣言】

身近な女性に対して、常にフェア(対等)な態度で接し、暴力を決して「振るわない」「許さない」ことを誓い、社会にある女性への暴力に「沈黙しない」、ポジティブな生き方を次世代に示し、行動する男性をフェアメンと呼ぶ。

### フェアメン3カ条

1. 耳を傾ける
2. 暴力に訴えない
3. 相手も自分も大切にする

### ■ホワイトリボンキャンペーン(WRC)

1989年12月6日モントリオール理工大学にライフル銃とナイフを持った25歳の男が侵入し、女性の権利拡張への反対を叫びながら女子学生14人を殺害し、自殺を図った。男は、自分の人生がうまくいかなかった原因を女性の権利拡張に求め、女性を逆恨みしていた。

この「モントリオール理工大学虐殺事件」は、女性に対する暴力とその背景にある女性蔑視の深刻さを、世界中に知らしめた。

1991年、カナダは12月6日を女性に対する暴力に関する追悼と行動のための国家的記念日とした。同年、事件を重く受け止めたカナダの3人の男性は「自分たち男性には、女性に対する暴力に反対の声を上げる責任がある」と、「WRC基本原則の声明」を掲げた。

これをきっかけに、11月25日(国連「女性に対する暴力撲滅の国際デー」)から12月6日までの期間、ホワイトリボンキャンペーンが行われるようになった。

カナダで始まった「ホワイトリボンキャンペーン」は、男性が主体となって女性に対する暴力撲滅に取り組む世界最大のキャンペーンとして50カ国以上に広がっている。

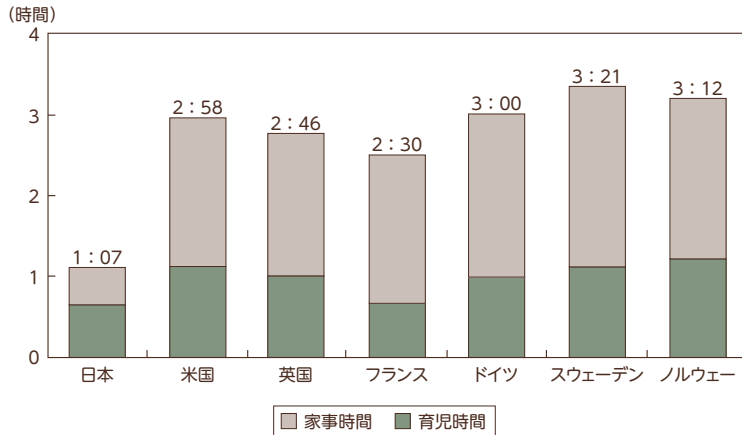
※ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン<http://wrcj.jp/> より



## 数字からみる男性の現状

### グラフ1 家事・育児時間が“超少ない”日本の男性

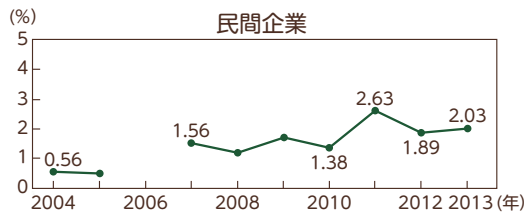
※6歳未満の子どもをもつ夫の1日あたりの家事・育児関連時間



日本の男性が、いかに家事・育児をしていないかが一目瞭然。スウェーデン3時間21分、ドイツ3時間、米国2時間58分、日本は1時間7分。約3倍もの差がある。

### グラフ2 育休取得、増えても2%! 増えないイクメン

※男性の育児休業取得率の推移

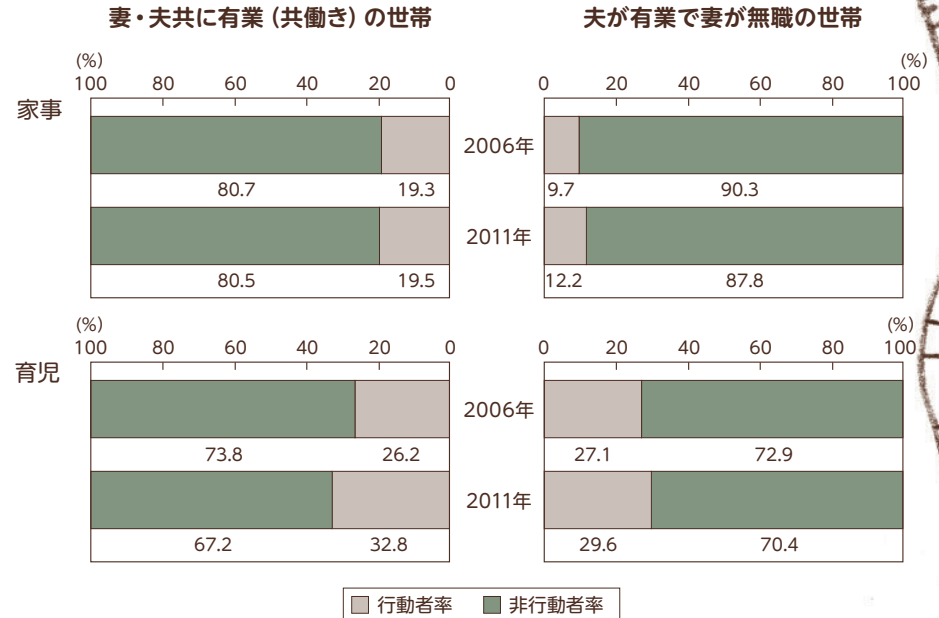


民間企業の男性の育休取得率は、2011年に1.25ポイント上り2.63%になったが、その後下がって2%前後を推移し、一向に進まない。「少子化社会対策大綱」(2015閣議決定)では、「男性の配偶者の出産直後の休暇取得率80%」「男性の育児休業取得率13%」を2020年までの数値目標に掲げているが。



### グラフ3 妻が働いていてもいなくても、夫の家事・育児時間は変わらない

※6歳未満の子どもをもつ夫の家事・育児関連行動者率



6歳未満の手間にかかる時期の子どもがいる夫の「家事」「育児」へのかかわりは少ない。妻が無職の場合は9割、共働きでも8割の夫は「家事」をしていない。5年前との比較でも状況はほぼ同じである。

夫の「育児」は5年前から微増しているものの約7割の男性はかかわっていない。25~44歳の女性の7割(2015年)が働いているにもかかわらず、「男性は仕事」という性別役割分業は根強い。

※資料出典:  
 [平成28年版 男女共同参画白書]内閣府/  
 [平成24年版 男女共同参画白書]内閣府/  
 [事業所調査結果概要]厚生労働省



## 語り合いの場であり続けている 「プレラかだるべ」

千葉征慶（「プレラかだるべ」世話人）

### 「男のためのコミュニケーション講座」から 始まりました

「かだるべ」ができるきっかけは、2007年ウェーブ主催「男のためのコミュニケーション講座」でした。コミュニケーションを切り口に、狙いは「DVを防ぐこと」。「暴力はストレスに対する不適切な対処行動」という考え方があり、ストレス対策をすることでDVが防止できるなら、カウンセラーの自分にも取り組めると考えました。DV対策を全面には出さず、家族との円滑な会話や喧嘩をするにも気持ちのいい喧嘩の仕方など、自分も相手も尊重するコミュニケーションをめざしました。「キレたくないのにキレてしまう」と悩む人がいるんじゃないかと思っていましたから。

講座では、DVで困っているという参加者はいませんでしたが、個別に話すとうつや別居の話もあり、それなりにあるんだろうなと感じました。

講座を修了して「かだるべ」を始めた当初はいろんな人が集まりました。ルール①ここだけの話 ②批判やコメントはしない ③パスOK ④時間の独り占めはしない)があっても、批判的なことを言う人や、年下に対して偉そうな言い方をする人、継続は難しいと感じる時期もありました。が、産後うつ・子育てがブルーなママの会「ルミエール」とコラボする機会があり、「うつ」に注目する必要性を感じて、「うつを語り合う会」として再スタートをしました。

うつになると、ひきこもったり、自分はダメだと思うけれど、そこを逆に「うつだからこそできる社会参画だ」と、「身内のうつを聴きあう会」を開催したら、結構人が集まりました。本心を明かす場がなかったんですね。

### 男性には結論を急がない会話の経験が必要

ジョン・グレイという心理学者が書いた「ベストパートナーになるために」(三笠書房)という本に、男性と女性では話し方がちがうとあります。例えば、女性から「話がある」と言われたら、男性は「進退を迫られるような話ではないか」と思い込んで構えてしまう。女性は話しながら解決しようとしているのに。

身構えないでただ聞くだけでいい「なんともできない問題」を何とかしようと、あすりゃいい、こうすりゃいいと勝手に助言し、聞き入れられないと「じゃあ俺にどうしろと言うんだ」とキレてしまう。結論を出すためではない“会話”があるということをも男性にも知ってほしいですが、モデルがないので難しいんですね。でも、経験を積み重ねることできるようになります。

### 対等、尊重、共生、自然を大事にするさをり織りに挑戦

2016年11月に「男性のための機織り体験」を開催しました。機織りって女性のイメージがあるけれど、男性がしてもいいじゃないかと「おしゃべりしながら機織りしてみませんか」と呼びかけました。人が集まるかなと心配しましたが、機織りをしてみたかった、衣装に興味があるという男性も集まりました。

今回はマフラーを作りました。1回目は自分が織って、2回目はパートナーが織るお手伝いをする。講師が男性だけを集めて、「一つだけミッションがあります。ガミガミ言わないこと」。会場は爆笑でした。

さをり織りのいいところは、ルールがないから

間違いがないところです。お手本がない、ダメがない。「俺が知ってる、お前は知らない」はないんです。相手の自由を認める。ある意味で、新しいコミュニケーションです。

### 語り合いの場はそれぞれを大切にすることから「言いつばなし、聞きつばなし」

自分や自分の家族のために働いていると思っていたら、実は国や会社のためだったということが「男らしさ」の背景に、そんな政治的なこともあると思います。が、月1回の定例の語り合いでは、大仰なことではなく、この1か月どんなことがあったの

## 転職で抜けたこともあります、10年前の発足当時から参加しています

大森敦史（「プレラかだるべ」サポート役）

男性ゆえの辛さは、弱音を吐けないことです。ね。稼がねばならない、家をもたねばならない、こうでなければならぬという「男らしさの鎧」です。男性のほうが「ねばならない」が多いのかもしれませんが。

コミュニケーション講座、ストレス・マネジメント講座、両方とも受講しました。興味がありましたが、会社がしんどかったことがありました。男性問題\*には共感していましたが、では自分はどうしたらいいのか、自分にできる方法を知りたいと受講しました。単身赴任や夜中まで仕事をする時期を、なんとか倒れずにやってこれたのは、講座でストレスを溜め込まない方法を学んだからだと思っています。

会社では、パソコンが普及してからとくにコミュニケーションの難しさを感じるようになりました。仕事は会話をしながら進めるのではなく、ひとりずつパソコンに向かうようになり、笑い声も少なくなりました。

会社の人事は、入社して15年から20年は出世の階段を降りるなどという制度です。何も考えず、もっと働かなければという気持ちに誘導され、脇目も振らずに働く体質に染められてい

か、今話したいことを話します。最初から抱えている問題の核心を話せる人は少ないです。回数を重ねて話していく中で、気づくことがあるかもしれないし、ないかもしれないけれど、人の話を聞くことでいろいろ考えたことが、役に立つかもしれないというのが「語り合いの場」です。働き出してへこんでいる若い人にも来てほしいなあと思っています。

ウェーブ活動推進グループ「プレラかだるべ」

■「男性のためのコミュニケーション講座」の受講者を中心に結成

■定例会：毎月第一日曜14:00～16:00

■会費：50～100円(会場費を参加者で割ります)

■会場：西宮市男女共同参画センター ウェーブ

きます。「社畜」という言葉があるくらいです。でも最近、会社は方針を変えて、能力向上は自分がんばってください、会社は面倒みません。無理なら辞めてもいいですと、要る人と要らない人を選別し始めています。入社2年目くらいの若手が辞める傾向があり、会社はもっとコミュニケーションをとってくれと言いますが、何を信じていいのかわからなくなります。

男性は真面目な話ができる場がないのです。朝から夜遅くまで職場にいますので、職場以外の人間関係は作りにくい。会社の人と飲みに行くと一時的にはすっきりしても、ストレスは繰り返します。

さをり織りのマフラーを見た妻が「いいのができたじゃない。いい色じゃない」と言ってくれました。こんな話ができるのがいいなあと思っています。会社だけではなく男の生き方を実現できたらと思っています。

※男性問題：男性であるがゆえに社会的に抱えている問題。従来の性別秩序のあり方のなかで男性に課せられた期待や抑制の解体を解決の方向とする。攻撃性、暴力性、競争意識によって特徴付けられる“男らしさ”から自己を解放していくことが課題とされる。(参考「女性学事典」岩波書店)



## 登場する男性像が女性に支持されるかどうか どうかがヒットの鍵になる

島崎今日子（ジャーナリスト）

ジェンダーをテーマに人物・時代・メディアなど幅広いジャンルで取材・執筆。  
著書：「安井かずみがいた時代」集英社、「わたしを生きる 女たちの肖像」紀伊國屋書店、「この国で女であるということ」筑摩書房、「女学者丁々発止!」学陽書房など。

関心のなかった俳優が、ある日、突然好ましくなる。そういう経験は誰にでもあるだろう。それは、大抵、ドラマの中でその俳優が演じている男性像にハマったということだ。辣腕の編集者と17歳年下の男との不倫の恋を描いた、大石静脚本の「セカンド・バージン」が放送された2010年の秋。「行クン」を演じた長谷川博己はそれまで舞台中心に活躍していたが、一気にメジャーになった。斎藤工は、2013年の「ガラスの家」や2014年の「屋敷」などで、セクシーな魅力を放射して女性ファンを増やしてきた。仕事や生活に疲れた女性の心に飛び込んでくる若い男という役柄は、彼の得意とするところである。

2011年に放送された朝ドラの「カーネーション」で、尾野真千子の恋の相手、寡黙なテイラー、「周防さん」を演じて人気者になったのは綾野剛だった。ここで描かれたのも不倫であったが、朝ドラは、基本的には、登場する男性像が女性に支持されるかどうかの鍵となる。

2014年に放送された中園ミホ作「花子とアン」の夫・村岡栄治は、翻訳家となる花子を励まし支える夫で、働く女性には願ってもない夫像として人気が出た。「朝ドラ」の主人公の夫の定番ではあるのだが、その進化系というか完成形とも言えるヒロインの夫が、2015年の「あさが来た」で、玉木宏が演じた白岡新次郎である。破天荒な少女だった小さな婚約者・あさに、そろばんを贈ったときから、

常に実業家として立っていくあさの傍らにいて絶対的な味方であった。

脚本を書いた大森美香が自分の理想を新次郎に投影したというが、まさに、理想の夫。どんなときにもひたすら愛して支えてくれる「絶対的な味方」というのは、1972年に池田理代子が発表した「ベルサイユのばら」のアンドレから始まり、日本では2004年に放送された「チャングムの誓い」の「チョンホさま」まで、女性の憧れをかきたててやまない永遠の幻なのである。しかも、あさには、ディーン・フジオカが演じた五代友厚という理想のメンターまで存在して、女性ファンが熱狂したのも当然であった。

だが、ここ数年、不倫を含めた恋愛ドラマの企画書がなかなか通らないという。昨今の、不倫をすれば人に非ずのように激しく糾弾されるという現実を反映しているというよりも、若者が恋愛しなくなり、視聴率がとれないからだとされている。かくして恋愛ものより、カタルシスが容易に感じられるスーパードクターが登場する医療ものや、刑事ものがドラマの主流を占めるようになった。

そんな中で、昨年秋に大ヒットしたのが、野木亜紀子脚本のラブコメ「逃げるは恥だが役に立つ」である。大学院を出たものの就職できない森山みくりと、京大出のシステムエンジニアで36歳まで童貞、自称「プロの独身」の津崎平匡。仕事でも恋愛でも「誰かに必要とされたい」という若者の切実な気持ちがテーマだというが、この二人の契約結婚から始まってほんものの恋に発展する姿は、キラキラ感も充滿するエロスも感じられないところが、微笑ましくて、妙にリアルであった。平匡を演じた星野源の淡白さ、油分を感じさせない風貌&雰囲気は、「俺様キャラ」や肉食系キャラとはちがう。その上で、役割はともかく、二人の精神的なパワー・バランスが極めてフラットであるという、女性に支持されるドラマに欠かせない要素はしっかり押さえてあった。

## ウェブ所蔵

## 「男性問題」関連図書&DVD

### 書籍



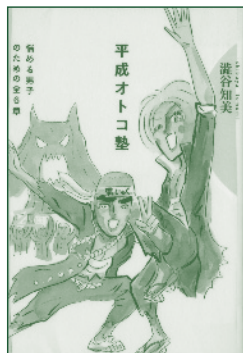
「男子家事」  
阿部絢子監修／マガジンハウス／2009

シンプルで環境に負荷をかけない循環型の暮らし「家事の新メソッド7カ条」をベースにした簡単ノウハウ集。



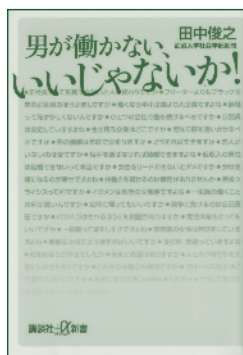
「揺らぐサラリーマン生活」  
多賀太編著／ミネルヴァ書房／2011

男性にとって自明の生き方ではなくなりつつあるサラリーマン生活。聞き取り調査から見た実態は…。



「平成オトコ塾」  
澁谷知美著／筑摩書房／2009

恋愛から結婚、非モテまで、男を縛る思い込みから自由に生きていくための実践的提案が満載。



「男が働かない、いいじゃないか!」  
田中俊之著／講談社／2016

男だからという理由だけで仕事が辞められない。「男性学」を切り口に男性が働くことの意味を考察。

### DVD

#### 「キッチン・ストーリー」

ベント・ハーメル監督  
ノルウェー、スウェーデン／91分／2003

田舎に住むひとり暮らしの老人のもとへ「独身男性の台所での行動」を調べに調査員がやって来た。調査員は調査対象者と話をしてはいけないのだが。

#### 「ある子供」

ジャン＝ピエール・ダルデンヌ、リュック・ダルデンヌ監督  
ベルギー、フランス／91分／2005

ブリュノとソニアは恋人同士。ふたりの間に子どもができるが、実感がないブリュノは子どもを売ってしまう。やがて、自分の犯した罪に気づく。

#### 「チョコレートドーナツ」

トラヴィス・ファイン監督  
米国／98分／2012

ショーダンサーのルディ。ゲイを隠している弁護士ポール。愛情を受けずに育ったダウン症の少年マルコ。3人は出会い、そして幸せな家庭を築き始めるが…。

#### 「フレンチアルプスで起きたこと」

ルーベン・オストロンド監督  
スウェーデン、デンマーク、フランスほか／118分／2014

フランスの高級リゾートでスキーを楽しんでいるトマスと家族。雪崩が発生したときのトマスの行動が家族の間に波紋を広げる。

